

1 いろ・いろ



- ① 川端 裕人/作
中垣 ゆたか/絵
- ② 講談社
- ③ 1950 円
- ④ E

はっきり違って見える赤と緑が「近い色」に見える人は「進化型」だった。

色の見え方は人それぞれ違います。「見えにくさ」は異常ではなく、個性の一つなのです。色覚の進化の過程やその仕組み、カラーユニバーサルデザインについても楽しく学べる知識絵本です。

2 おじいちゃんのくるみのき



- ① アミ=ジョン・ポケット/ぶん
フェリシタ・サラ/え
ひさやま たいち/やく
- ② 評論社
- ③ 1600 円
- ④ E

エミリアのおじいさんは、子どもの頃に小さなカバンとクルミの実だけを持って、祖国を離れました。大切に育てたクルミは大きな木となり、その実はエミリアのお母さん、そしてエミリアへと受け継がれます。クルミの木は、これからは家族の歴史を見守り続けます。

命のつながりの尊さを感じられる物語です。

3 クジラがしんだら



- ① 江口 絵理/文
かわさき しゅんいち/絵
- ② 童心社
- ③ 1800 円
- ④ E

死んだクジラは、食料の乏しい深海に暮らす生物たちにとって、とても大きな恵みです。クジラの命は終わっても、その体を食べる別の生き物へと命をつないでいくのです。

クジラの死骸を中心に形成される「鯨骨生物群集」という深海の生態系について学ぶことのできる絵本です。

4 シロツメクサはともだち



- ① 鈴木 純/著
- ② ブロンズ新社
- ③ 1400 円
- ④ E

道ばたや公園でよく目にするシロツメクサ。四葉のクローバーを探したり、花かんむりを作ったり、草花遊びの定番として親しみやすい存在です。身近なシロツメクサですが、実は私たちの知らない秘密がたくさん隠されています。

植物観察の楽しさを知ることができる一冊です。

5 世界でいちばんリクエストのおおいくつ屋さん



- ① 十河 孝男/文
十河 ヒロ子/文
本田 亮/絵
- ② 合同出版
- ③ 1800 円
- ④ E

10人に1人、左右の足のサイズが違う人がいることを知っていますか？その人たちは異なるサイズの靴を2足買い、要らない片方の靴は捨てるか大きいサイズを買い、小さい方の靴の先に詰め物をして履いているのだそうです。そんな人たちのために「転びにくい靴を作りたい」と靴を作り始めた「世界で一番リクエストの多い靴屋さん」のお話です。

6 その絵ときたら！



- ① ミシェル・マーケル/文
バーバラ・マクリントック/絵
福本 友美子/訳
- ② ほるぷ出版
- ③ 2400 円
- ④ E

子ども向けの絵本はまだ作られていなかった 19 世紀のこと。画家のランドルフ・コールデコットは、今にも動き出しそうな子どもたちを描き人気を博しました。後々の絵本作家にも影響を与えた彼は、一体どんな人物だったのでしょうか。絵本のあちこちに散りばめられたコールデコットのイラストも楽しめる一冊です。

7 そらくんのすてきな給食



- ① 竹内 早希子/作
木村 いこ/絵
- ② 文研出版
- ③ 1600 円
- ④ E

小学校 1 年生のそらくんには、食べ物のアレルギーと苦手な食べ物があります。初めての給食は心配でしたが、給食室ではアレルギーのある子も安心して楽しく食べられるように、様々な工夫をしていることを知ります。

食物アレルギーやその対応について、分かりやすくやすく学ぶことができる一冊です。

8 ちいさな木



- ① 角野 栄子/作
佐竹 美保/絵
- ② 偕成社
- ③ 1300 円
- ④ E

何年も同じ所に生えていた小さな木のキッコは、ある日綱を食いちぎって家出した犬のゴッチと出会います。「自分の好きな所へ行く」というゴッチに誘われ、キッコは思い切って根っこを引き抜き、旅の一步を踏み出します。道すがら出会った岩のイワオ、まっさおな沼のイッテキたちとの旅の行方を楽しめる本です。

9 100 ねんごもまたあした



- ① 瀬尾 まいこ/作
くりはら たかし/絵
- ② 岩崎書店
- ③ 1700 円
- ④ E

図工の授業に 100 年後の世界を描くことになりました。「ロボットの活躍、タイムマシン、空をとべるクツ。100 年後なら今よりすごく便利になってるんだろうな。」

みんなで描いた思い思いの未来の絵を教室に貼っていると、未来の事を知っている不思議な子が現れます。未来に思いを馳せる一冊です。

10 ほうきをもつ少年



- ① たかはし としひで/さく・え
- ② 文芸社
- ③ 1500 円
- ④ E

いつでもどこでも箒をもって掃除をしているジン。「えらいね。でもどうして毎日掃除をしているの？」と聞かれ、ジンはなぜ自分が掃除をするのか、うまく答えられずに困ってしまいます。そこである日、思い切って掃除をやめてみたジンは、自分なりの答えに辿り着くのです。

小学校低学年の本

①著者名 ②発行所 ③本体価格 ④請求番号

11 ぼくのひみつのともだち



- ① フレヤ・ブラックウッド/作
椎名 かおる/文
- ② あすなろ書房
- ③ 1700 円
- ④ E

都会の街なかにある、だれも知らない小さな森に、木のような、ぞうのような友達が出来たぼく。暑い夏の日も、寒い冬の日も一緒に過ごしていたぼくとぞう。ところがある日、森の木々に×（バツ）印がどんどん付けられていき……。ぼくとぞうに起こった不思議な物語です。

12 ほんとにともだち？



- ① 如月 かずさ/作
高橋 和枝/絵
- ② 小峰書店
- ③ 1300 円
- ④ 91 キ 024

たぬきのたんくんが、くまのまあくんの家に遊びにきました。2人とも粘土遊びに夢中になって、さっきから一言もしゃべりません。いつもこんなふうに静かです。「2人って本当に友達なの？」とお姉ちゃんに聞かれたまあくんは考え込んでしまいました。友だちっていいな、と思えるような、優しさにあふれた一冊です。

13 まねをしました



- ① すず きみえ/作
下平 けーすけ/絵
- ② 文研出版
- ③ 1300 円
- ④ 91 ス 024

図工の時間、遠足で行った水族館の絵を描くことに。描くものを決められないゆうまは、ハルトがサメの絵を描いているのを見ました。「ハルトくんのサメ、かっこいい!」と思って、ハルトのまねをしたサメを描いてしまいます。小学校の教室で起こる小さなドラマの中で、子どもの心の成長が読める一冊です。

14 エビフライのしっぽたべようクラブ



- ① 平田 昌広/作
平田 景/絵
- ② 文研出版
- ③ 1300 円
- ④ 91 ヒ 023

ともちゃんは、さくさくで香ばしいエビフライのしっぽが大好き!でも、同じ班のまいちゃんも、みきちゃんも、かずくんも、給食のエビフライのしっぽを残しています。家に帰ったともちゃんが、「エビフライのしっぽって、食べたらかしいの?」と父親に聞いたら……。SDGsにつながる一冊です。

15 図書館のぬいぐるみかします 1 わたしのいるところ



- ① シンシア・ロード/作
ステファニー・グラエギン/絵
田中 奈津子/訳
- ② ポプラ社
- ③ 1300 円
- ④ 93 □ 024

図書館司書アンの人形だったアイビーは、本のように借りることができる図書館のぬいぐるみ「ブック・フレンド」になりました。でも、アンと一緒にいたいアイビーは、誰にも借りられたくないと思っていました。そんな時、一人の女の子に出会います。大切なものを本当に大切にすることの意味を感じる作品です。